

ごみ処理施設見学

出雲エコナビバスツアー を開催しました！！

あなたの
エコアクションを
ナビゲート！



平成28年1月27日（水）に市内のごみ処理施設を見学する「出雲エコナビバスツアー」を開催しました。平成23年度までは順調に減っていた本市のごみですが、24年度以降は増加傾向となってしまっています。この現状を打開し、ごみダイエットを進めるため、特別企画!! (^_^) / 「出雲エコナビバスツアー」を開催しました。広報いずもなどで募集を行ったところ、1月末という天候のきびしい時期にも関わらず、26名の方に参加していただきました。

○朝9時30分に市役所本庁に集合！！



心配した天気も回復し、いざ出発！

当日は、雨こそ降らなかったものの寒さはやっぱり厳しかったです。そんな中、集まっていただきバスに乗り込んでいざ出発！ 仲のいいお友達と参加された方や、環境問題に熱心に取り組んでおられる方などを乗せ、まだまだ緊張した雰囲気の中で、肩慣らしにごみ分別のDVDを見ながら最初の見学先である「出雲クリーンプラザ」へ移動します。

○出雲クリーンプラザでの資源ごみ、破碎ごみ、埋立ごみ処理施設の見学

出雲クリーンプラザに到着。さっそく、研修室に入り、まずは〔缶・びん・ペットボトル〕



のリサイクル処理について、三島センター長からDVDや資料を使った説明をお聞きました。さすがセンター長、説明にそつが無く、大変分かり易いお話しで皆さん聞き入っておられました。中でもクリーンプラザから出荷されたアルミ缶で作ったインゴットを見たときには「ほうー」と感心の声があがりました。『リサイクルしますよ。』と聞いて

はいるものの、自分たちが分別して出している資源ごみが、実際に原料になっているのを見るとやはり感動しますよね。「自分たちの手間暇は無駄じゃなかった！」と感じた瞬間だったのかなと思います。また、皆さんの学習意欲の高さから「違反びんって何？」「機械のメンテナンスはどうやっているの？」「びんのラベルは必ずとるの？」など色々な質問が飛び交いました。全ての質問のお答えしたいところですが時間の都合上、切り上げざるを得ませんでした。まだ聞きたいことがあった方々には申し訳ありませんでした。



アルミのインゴット。
アルミ缶8個で作れるそうですよ。



研修室を出て、いよいよ『出雲リサイクルセンター』の現地見学です。まずは【空き缶のリサイクル】から。機械を使って約650個のアルミ缶を一気に押しつぶしブロック状にする様子は、テレビで観たことはあっても、実際に見るのはほとんどの方が初めてだったのではないのでしょうか。パキパキと音をたてながら、ゴトンと出来上がり。

あっ！素手では触らないように、ケガしますよ～

次に【びんのリサイクル】です。びんは手作業で指定ごみ袋から取り出して、機械で色別〔無色、茶、その他〕の三つに分けたうえでリサイクル工場へ出荷するそうです。不適切なびんが混ざっていれば手作業で取り除くことになるので、作業をしておられる方の苦労を考えると私たちの分別が大切なんだなと改めて思いました。

【紙のリサイクル】では、〔新聞紙、ダンボール、雑誌雑紙、紙パック〕ごとに機械にかけ、紐を紙からはずします。その紐を手作業で取り除いた後、圧縮した紙を針金で縛ってブロック状にし、リサイクル工場へ出荷します。家庭から紙リサイクルを出される時は、「紐で縛ってください」とお願いをしていますが、時々、ガムテープなどでまとめてあるものを見かけることがあります。ガムテープでは、紙からすばやく取り出せませんし、紙に糊部分が残ったりとリサイクルに支障がでることがありますのでやめてくださいね。



左奥にブロックになった紙が見えます。



寒風吹きすさぶ場所での作業は大変です！

続いてリサイクルセンターの隣にある『出雲クリーンセンター』の見学です。だんだんと寒さが身に染みてきましたが、参加者さんの興味は衰えません。ここでは、破碎ごみを指定ごみ袋から取り出す作業と、作業区分ごとの仕分作業をいずれも手作業でやっておられました。包丁などの刃物は新聞紙などで包んで危なくないようにしてから、出してもらおうようお願いしていますが、作業員さんの安全を考えると当然ですね。

破碎機の中で高速回転している破碎刃が破碎ごみを粉々にし、そこから軽量プラスチック類と鉄は選別機で、アルミなどの非鉄金属は手作業でピックアップしてから、金属はリサイクルへ、プラスチック類は焼却処分をしているそうです。

それから、センター長の話では、ガスの残っているカセットコンロのガス缶などを破碎機にかけて爆発した時などのために、破碎機は中で爆発があっても対処できる構造になっているとか。逆に、そういった事故が珍しくないという現れなのかなと残念な気持ちになりました。皆さんお気を付けくださいね。

リサイクルプラザ最後の施設は『神西一般廃棄物埋立処分場』です。この埋立処分場が完成した平成7年当時



埋立処分場は生ごみ等は埋め立てないので、臭いもなくクリーンです！

と比べると、現在はリサイクル品目も増え、さらにはごみ処理技術も進歩したおかげで埋め立てるごみも減り、当初想定された埋立処分場利用可能年数は大幅に延びているそうです。ごみ減量効果はこんなところにも表れるんですね。公共施設である埋立処分場を長く使うことができれば、その分、ごみ処理経費も抑えることが出来る！ごみ減量化はまさにスタイリッシュ！！

予定どおりリサイクルプラザの見学を終えたのでバスに乗り込み、次の目的地である出雲エネルギーセンターに移動します。車内は出発時と違って和やかな雰囲気になり、「さっきのここは凄かった。」などとお隣同士でお話しをしておられました。(＃^．^＃)

○出雲エネルギーセンターでの座学と

可燃ごみの処理施設見学

出雲エネルギーセンター（以下「エネセン」と省略します。）に到着すると暖かい研修室に入りホッとするのも束の間、「出雲市の一般廃棄物処理に関する課題」と



題した座学に入ります。スクリーンを使いながら、本市のごみ排出量、可燃・破碎・埋立・資源ごみごとの排出状況やどのような内容のごみが出されているかを表したごみ組成割合などの説明がありました。平成24年から26年までのごみ総排出量は横ばいであるものの、可燃ごみは増加し、破碎・

埋立・資源ごみは減少傾向にあるので、可燃ごみの減量化がポイントであるとのことでした。また、組成割合からは、可燃ごみの約20%が紙類であり、そのほとんどはリサイクル可能なはずなのに分別されていないために燃やされてしまっていること、破碎ごみにもリサイクルできるはずの飲料用空き缶が約5%含まれていること、埋立ごみにもびん類が約37%含まれており、これも多くはリサイクル可能なのに分別されていないせいで埋立処分されていることが分かりました。それから、ごみを収集したり処分したりするのに必要な経費は年々増加傾向にあり、平成19年度は一人あたり7,791円だったのが、26年度はなんと10,238円（5人家族なら51,190円!）もかかったとの説明がありました。

つまり、

〔分別をきちんとする〕 → 〔リサイクルが増える〕 →

〔ごみが減り、処分量が減る&処理施設が長持ちする〕 → 〔ごみ処理経費が減る〕

こんな風になるようにみんなで努力していかなくてははいけないってことですね！

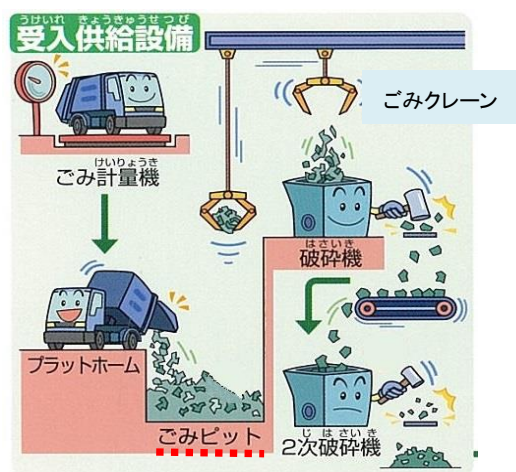
ここで、エネセンの研修室でお昼ごはん（今回は皆さんお弁当持参です！）と休憩です。そして、午後はいよいよエネセンの施設見学となります。

エネセン施設見学は、片寄センター長にお話を聞いたり施設の案内をしてもらいます。まずはDVDを見てエネセンの基礎知識を学びましたが、エネセンが可燃ごみを燃やして電気を作っていることを知らなかった方もおられました。実はこれ、エネセンの名前の由来なんです。〔電気を作るセンター〕だから〔エネルギーセンター〕、理由が分ると納得ですね。その電気はエネセン自体や島根県産業技術センター花振興棟「しまね花の郷」で使用し、余ったものは中国電力へ売電しているそうですよ。

次に、実際にエネセンの中を見て歩きます。まず注目を集めたのは【中央制御室】で、ここでは可燃ごみの処理過程を一括して制御しています。



エネセンを管理する中央制御室。たくさんの電光掲示やごみクレーンを操縦する様子を見ることが出来ます。



破砕後、次の処理工程へ

ガラス越しですが、職員の方がたくさんの数字が並んだモニターを監視したり、大きなごみクレーンを操縦する様子に緊張感が伝わってきます。次に一番皆さんが興味津々で見ておられたのが、ピットを見ることが出来る場所でしょう。ピットとは外から来たごみ収集車が



ピットにある可燃ごみの山に驚く
様子の皆さん。

一番最初に可燃ごみを降ろす場所ですが、可燃ごみが積みあがって山のようにになっている様子には圧倒されます。これを見て参加者の方が「今朝、私が出したごみもここに来てるんですね。」とポツリとつぶやかれました。そうなんです、この山を作ってるのは自分たちのごみなんです。とかく、『自分だけが一握りのごみ減量をしても意味ないんじゃないか。』と考えがちですが、自分を含めた6万2千世帯からのごみが集まって

大きな大きな山となっているのを見ると、みんなの一握りが大きな山を小さくする第一歩であるという事を改めて感じました。

エネセンの施設見学を終えると最後の目的地であるクリエイト山陰(株)へ向かいます。ツアー開始から5時間半以上も経っていますが、参加者さんはまだまだ元気！皆さんの熱意に脱帽です。

出雲エネルギーセンターでは見学申し込みを受け付けてます。

エネセンはきれいな見学コースが用意されていて、臭いを気にしたり天候に左右されることなく快適に見学ができます。今回のようなツアー以外でも、見学を受け付けていますので、興味のある方はエネセン(電話23-9225)までお尋ねください。

○クリエイト山陰(株)でのペットボトルリサイクルと産業廃棄物処分の施設見学

最終目的地のクリエイト山陰(株)さんに到着しました。ここでは、市が集めた資源ごみであるペットボトルの中間処理をしておられます。

まずは職員さんから「我が社ではペットボトルを破砕機にかけてフレーク(うろこ状の破片)にしたものをリ



フレークになったペットボトル



奥の方で、ペットボトルを掻き込んでおられます。

サイクル原料として出荷してしまして、主に化学繊維になり、衣類として生まれ変わっています。」と説明を聞いてから、2階の作業現場へ移動。実際に破碎処理をする様子を見せてもらいました。「それでは破碎機を動かします。」 途端に**フイーン！！**と2階から1階にかけて設置してある大きな機械が音をたてはじめ、さっきまで静かだった現場がとどろきの人との会話も大声でなければ出来ないほど

になりました。職員さん2名が大きなスコップの様な道具を使い、慣れた手つきで破碎機の中にペットボトルを掻き込んでいくと、1階に置いてある大きな袋の中にフレークがどんどん溜まっていきます。落ちてくるフレークはまるで雪のようでしばらく見とれてしまいました。

職員さんは掻き込み作業を続けながらも、リサイクル出来ない汚れたものやラベルが付いたままのペットボトルを一つひとつ拾い上げては選別をしておられました。やっぱり、分別をきちんとしていないと現場の作業員さんに苦勞をかけてしまうのは、どこの処分場も一緒なんですね！！ この間も参加者さんは職員さんにいろいろと聞いておられましたが、何を聞いておられるのかは聞こえませんでした・・・ (^_^;)



↑↑フレークが溜まる袋



続いて、産業廃棄物の処分場を見せていただきました。大きな機械が並んで置いてあり、流れ作業で素材などにより仕分けをしておられましたよ。職員さんは「大きな機械があっても、やっぱり最後は人の手で仕分けるしかないんです。」とっておられました。あたり前ですが、仕分け作業は一般廃棄物も産業廃棄物も同じなんですね。

クリエイト山陰㈱の皆様にはお忙しい中、丁寧な説明をしていただき本当にありがとうございました。(^^)/ 話しが逸れますが、クリエイト山陰㈱さんには水道がきていないそうです。えっ！水はどうしてるの？ 作業に使う水は雨水を建物の雨どいを使って100トンタンクに集めたものを使ってるそうです。なんてエコなんでしょう！ すごいですね！ もちろん飲み水は購入しておられるそうですよ。

以上で全ての日程を終え、終点の市役所本庁にバスで向かいます。

○市役所本庁に無事帰着、皆さんお疲れ様でした！

予定通り15時50分に市役所に帰りました。お疲れのところ申し訳ないと思いつつ、今後の参考にとアンケートをお願いしたところ、熱心に書いていただきました。

一部を紹介すると、

- ・本ツアー全体の印象についてはとの問いに、皆様から『大変良かった』また『良かった』との回答をいただきホッとしました（笑）。
- ・興味をもったところはという問いには多くの方が、『リサイクルセンターでの手作業での仕分けにはびっくりした。ごみの分別は一人ひとりが考えなくてはならない。』また『何事もだが現場をよく見て感じる事が重要だと思った。』とお答えいただきました。まさに今回のツアーの意図した部分を参加者の皆さんに感じていただけたことが大変うれしかったです！



併せて次回のツアーに希望する点についても、多くのご意見をいただきました。今回いたらなかった点を改善しつつ、参加者の皆さんのご意見を参考により充実したものを開催できればと考えております。その際は、この記事を読んで興味をもたれた方はどうぞ奮ってご参加くださいね！(^^)/~~~~

発行：出雲市経済環境部環境政策課減量推進係
〒693-8530 出雲市今市町70
☎0853-21-6988 FAX0853-21-6597